

194年

興平元年（漢）

皇帝

劉協（漢獻帝）

皇后

（空位）

皇太子

（空位）

三公

太傅：馬日?（前太尉・録尚書事・192~194）（死亡）（空席）

太尉：朱儁（前太僕・193~194） 楊彪（前太常・194~196）

司徒：淳于嘉（前司空・192~194） 趙溫（前衛尉・194~208）

司空：張喜（前衛尉・193~196）

その他の要職

録尚書事：

馬日?（太傅・192~194）（死亡）？

朱儁（太尉・193~194） 楊彪（太尉・194~196）

趙溫（司徒・194~?）

太常：楊彪

光祿勳：

衛尉：趙溫

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大將軍：

驃騎將軍：

車騎將軍：

衛將軍：

地方官

司隸校尉：？

冀州牧：袁紹(191~202)

幽州牧：？

并州牧：？

青州：？

豫州刺史：郭貢《後漢書鄭孔荀列伝荀彧》

?州牧：曹操（前東郡太守）

徐州牧：陶謙(~194)（死亡） 劉備(194~)

河南尹：駱業《後漢書皇后紀靈思何皇后》

荊州牧：劉表(192~208)

涼州：？

揚州：？

益州：？

交州：？

龐州：？

主な事件

- ▶ 興平元年春正月辛酉、天下に大赦する《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 興平に改元する《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 帝元服する《後漢書孝献帝紀》有司は長秋宮を立てるべきと奏上する。《後漢書皇后紀靈思何皇后》
- ▶ 興平元年春、曹操は徐州から帰還する。初め、曹操の父の曹嵩は退官後?に帰っていたが董卓の亂を避けて瑯邪に避難していた。陶謙のために害され、故に曹操は復讐の志をもって東伐に向かっていた。《三国志魏書武帝紀操》曹嵩は泰山の華縣にあった。曹操は泰山太守の應劭に迎えて?州に送り届けるよう命じた。應劭の兵がいまだ至る前に、陶謙は密かに数千騎を遣わして掩捕せんとした。曹嵩は應劭を待っていて備えを設けていなかった。陶謙の兵が至たり、曹操の弟の曹徳を門の中で殺す。曹嵩は懼れて後ろの垣を穿ち、先に妾を出そうとしたが妾が肥えていて出られなかった。曹嵩は厠に逃げたが妾とともに害された。闔門は皆死んだ。應劭は懼れて官を棄てて袁紹のもとに行った。後に曹操が冀州を平定した時、應劭はすでに死んでいた。《三国志魏書武帝紀操に引く世語》曹操は曹嵩を迎えた。輜重は百餘兩だった。陶謙は都尉の張?に騎二百を率いさせて遣わし送った。張?は泰山の華において嵩を殺し財物を奪い、淮南に出奔した。曹操は咎を陶謙に帰し征伐する。《三国志魏書武帝紀操に引く韋曜?書》
- ▶ 二月壬午、皇妣の王氏を靈懷皇后と諡し追尊する。甲申、文昭陵に改葬する。《後漢書孝献帝紀》有司は追尊して王美人を靈懷皇后とするよう奏上した。文昭陵に改葬し、儀礼は敬・恭の二陵に比し、光禄大夫に節を持たせ行司空事が璽綬を奉った。王美人の兄の王斌と河南尹の駱業が復土した。《後漢書皇后紀靈思何皇后》
- ▶ 丁亥、帝は藉田を耕す《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 三月、韓遂、馬騰は郭汜、樊稠と長平觀で戦い、敗れる。左中郎將の劉範、前の益州刺史[ネ中]劭は戦没《後漢書孝献帝紀》
注に引く、前書音義に、長平は阪の名前にて、池陽宮にある。長安とは約50里の距離がある。
また注に引く、袁宏紀によれば、このとき馬騰は李確*等が専乱を行っているとして、宗室の大臣である劉焉に使者を遣わした。劉焉は子の劉範に將兵を授けて馬騰に就かず。故涼州刺史の[ネ中]劭は太常の[ネ中]弗の子で、[ネ中]弗は李確*に害されたので仇に報いんと参加した。《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 夏六月丙子、涼州の黄河以西四郡（金城郡・酒泉郡・敦煌郡・張掖郡）を分けて龐州を作る《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 丁丑、地震《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 戊寅、また地震《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 乙巳晦、日食あり。皇帝は正殿を避け、聴事を五日間行わなかった《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 大いに蝗《後漢書孝献帝紀》
- ▶ 夏、曹操は荀彧、程昱を遣わして?城を守る。再び陶謙を討つ。五城を抜き、遂に東海に至る。?を過ぎて還るとき陶謙の將の曹豹と劉備が?の東に駐屯しているのを撃ち破る。遂に襄賁を攻拔する。通過したところの多くで殘戮する。《三国志魏書武帝紀操》

- ▶ 張?は陳宮とともに呂布を迎えて曹操に叛いた。?州の郡縣は皆応じた。荀彧、程昱は?城を保ち、范、東阿の二縣も固守した。曹操は軍を引き返した。呂布は?城を攻めたが落せず西進して濮陽に駐屯した。曹操は進軍して攻めた。呂布も兵を出して戦う。先陣の騎兵が青州兵を攪乱し青州兵は逃走した。曹操の陣は亂れた。曹操は馳突で火が出て馬を落ち左手掌を火傷した。司馬の樓異が曹操を助けて馬に乗せ退去した。軍営に曹操が戻ってこないのので諸將は浮き足立ったが、曹操は軍を勞り、軍中に令して攻める用意を整え、進軍して再び攻撃した。呂布と対峙すること百餘日。蝗蟲が起り百姓は大いに飢え、呂布の糧食もまた乏しく各々引去する。《三国志魏書武帝紀操》曹操が濮陽を囲んだ時、濮陽の大姓である田氏が寢返ると聞いて、曹操は城内に入ることが出来た。しかし東門が焼かれ、寢返りが嘘だということがわかり、軍は敗れた。呂布の騎兵が曹操と遭遇したがそれが曹操だと分からず、「曹操はどこか?」と聞いた。曹操は「?馬に乗っているあのものです」と答え難を逃れた。門の火は勢い盛んで曹操は火を突いて脱出した《三国志魏書武帝紀操に引く袁?獻帝春秋》太祖は陶謙を征伐した際、領東郡太守の惇を留めて濮陽を守らせる。張?は呂布を迎えてて叛き、太祖の家族は?城にあったので惇は輕軍をもって往赴する。途中呂布と遭遇し交戦する。呂布は退き、濮陽に入る。襲得惇軍輜重。遣將偽降，共執持惇，責以寶貨，惇軍中震恐。惇將韓浩乃勒兵屯營門，召軍吏諸將，皆案甲當部不得動，諸營乃定。遂詣惇所《三国志魏書諸夏侯曹傳》
- ▶ 秋七月壬子、太尉朱儁が免じられる《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 戊午、太常の楊彪を太尉・録尚書事と為す《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 四月から七月に至るまで三輔では大旱魃《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 皇帝は正殿を避けて雨乞いをし、使者を囚徒に遣わして蕩滌させ、刑を軽くした《後漢書孝獻帝紀》、
- ▶ このとき穀1斛50万、豆麦1斛20万銭と為り、人相食み白骨は積もるに任された。皇帝は侍御史の侯?を遣わして、太倉の米豆を出させ、飢えた人に粥を作った。日を経ても死者が減らなかった。皇帝は疑って、親しく御座前で粥作りを試みさせ、真実を悟った。これによって尚書令以下省閤に出て謝し、侯?を捕らえて考査を奏した。詔に曰く、「侯?を裁くに忍びず、杖打ち 50とすべし」と。これ以後全てに徹底され得るもの多かった。袁宏紀によれば、侍中の劉艾は米豆5升で粥を作って盃3杯を満たして見せた。これを尚書に詔して曰く「米豆5升、粥盃3杯を作れる。」《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 八月、馮[立羽]羌が反乱し属県を寇す。郭[汜]、樊稠がこれを撃破する《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 九月、桑がまた桑の実を生み、人は食べるを得る《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 秋九月、曹操は?城に還る。呂布は乘氏に至り、そのの縣人である李進に破られ、東に行つて山陽に駐屯する。ここにおいて袁紹は人を遣わして太祖に連和したいと説得させた。曹操は新たに?州を失い、軍食も乏しく、許可しようとしたが、程昱が諫止し、曹操もそれに従った。《三国志魏書武帝紀操》
- ▶ 司徒の淳于嘉が罷める《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 冬十月、長安の市門が自壊する《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 冬十月、曹操は東阿に至る《三国志魏書武帝紀操》
- ▶ 衛尉の趙温を以つて司徒・録尚書事と為す。《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 十二月、安定郡・扶風郡を分けて新平郡を置く。《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ この歳、楊州刺史劉ヨウは袁術の將孫策と曲阿に於いて戦い、敗れる。孫策は遂に江東に抛る。太傅の馬日?は寿春に於いて薨る。
- ▶ 是?、陶謙が死に、劉備が之に代わった《三国志魏書武帝紀操》

誕生者

死没者

劉範（左中郎將）

[ネ中]劭（前の益州刺史）

馬日?（太傅）

陶謙：徐州牧

[PAGE TOP](#)

[193年 <<](#) [>> 195年](#)